

2019年12月期 第2四半期 決算説明会

2019年8月5日
JUKI株式会社
代表取締役社長 清原 晃

Mind & Technology

JUKI
Mind & Technology

目次

第1部 2019年12月期（2019年度） 上期業績の概要	
1. 業績推移・配当	3
2. 経常利益増減要因	4
3. 主要財務項目推移	5
4. セグメント別業績推移	6
5. 通期業績予想	10
第2部 中期経営計画（2019-2021）の取り組みと下期の重点施策	
1. 中期経営計画の取り組み	12
2. 2019年度下期 重点施策	22
3. ESGの取り組み	34

第1部
2019年12月期（2019年度）
上期業績の概要

2019年12月期（2019年度）上期 業績推移・配当

売上高は、ソリューション営業活動の推進や、アジア市場を中心としたミドルマーケットでの顧客開拓を進める一方で、米中貿易摩擦の長期化、中国における景気減速などの事業環境の変化により、中国、欧州での売上が減少したことから、前年比△2.5%の減収。

利益面は、コストダウン等による利益率改善を進めたものの、売上減少影響やミドルマーケットの開拓推進、先端開発費の増加などにより、営業利益は前年比△28.9%、経常利益は前年比△33.7%の減益。

(百万円)

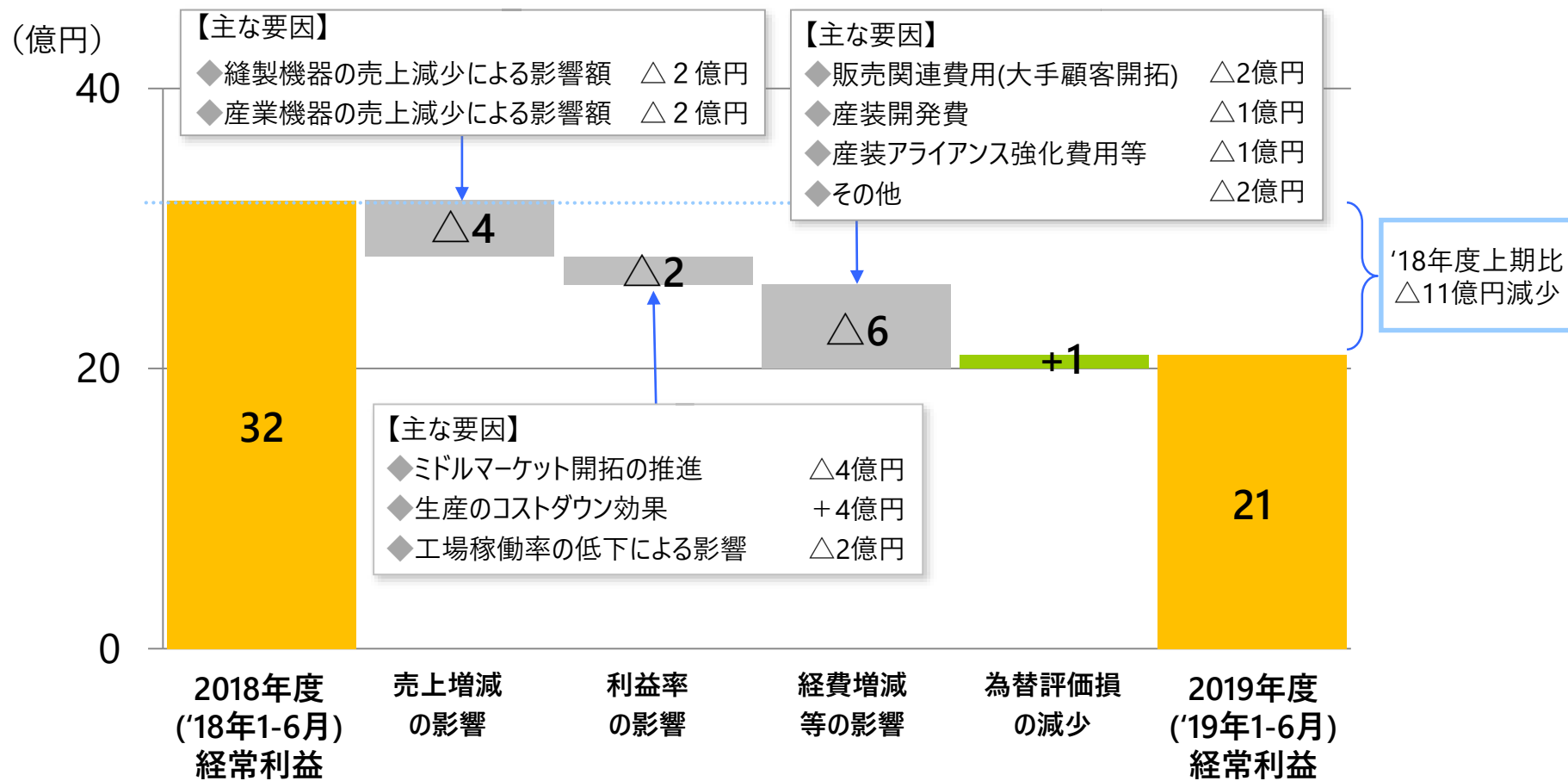
		'18/12期（2018年度）			'19/12期（2019年度）			前年同期比 増減額 <B-A> (増減率)
		上期			上期			
		1Q	2Q	上期<A>	1Q	2Q	上期	
		'18年1-3月	'18年4-6月	'18年1-6月	'19年1-3月	'19年4-6月	'19年1-6月	
売上高		25,650	27,585	53,235	25,753	26,132	51,885	△1,349 (△2.5%)
営業利益		1,242 [4.8%]	2,408 [8.7%]	3,650 [6.9%]	1,349 [5.2%]	1,246 [4.8%]	2,595 [5.0%]	△1,054 (△28.9%)
経常利益		946 [3.7%]	2,232 [8.1%]	3,178 [6.0%]	1,103 [4.3%]	1,004 [3.8%]	2,107 [4.1%]	△1,070 (△33.7%)
当期純利益		468 [1.8%]	1,474 [5.3%]	1,942 [3.6%]	727 [2.8%]	709 [2.7%]	1,436 [2.8%]	△505 (△26.0%)
為替 レート	ドル ユーロ	109円 133円	109円 129円	109円 131円	110円 126円	110円 123円	110円 124円	1円 △7円
2018年度 年間配当実績：30円/株				2019年度 年間配当予想：30円/株				

* 為替レートは営業利益に影響する期中平均レート

* []は売上高利益率

2019年12月期（2019年度）上期 経常利益増減要因

コストダウンなどによる利益率改善を進めたものの、中国、欧州での売上減少影響、ミドルマーケットの開拓推進、将来に向けた先端開発費の増加などにより、経常利益は前年比△11億円の減益。



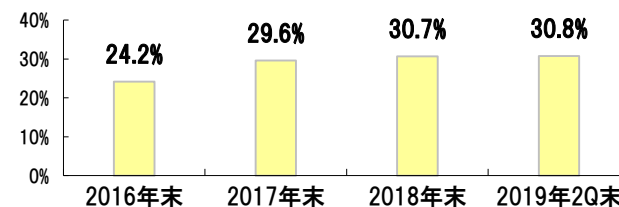
- ・総資産は、売上債権や在庫が減少したことなどにより前年比12億円減、自己資本比率は30.8%。
- ・有利子負債は、仕入債務の減少などにより現預金控除ベースで474億円と、前年比で24億円増。

(百万円)

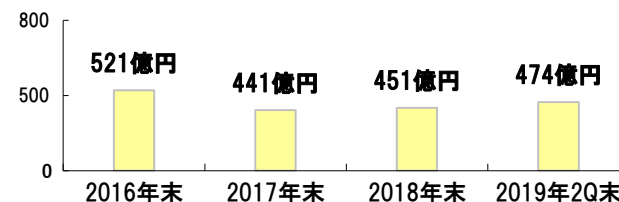
	'18/12期 ('18年12月末) 〈A〉	'19/12期 ('19年6月末) 〈B〉	増減額 〈B-A〉
総資産	119,121	117,963	△1,157
純資産 [為替換算調整勘定]	37,241 [△2,973]	37,034 [△3,680]	△207 [△707]
純資産比率	31.2%	31.4%	0.2%
自己資本比率	30.7%	30.8%	0.1%
売上債権 [売上債権回転期間]	33,465 [3.6ヵ月]	32,266 [3.4ヵ月]	△1,198 [△0.2ヵ月]
在庫 [在庫回転期間]	43,516 [4.7ヵ月]	42,493 [4.5ヵ月]	△1,022 [△0.2ヵ月]
仕入債務 [仕入債務回転期間]	16,285 [1.7ヵ月]	12,821 [1.3ヵ月]	△3,463 [△0.4ヵ月]
有利子負債	52,379	55,657	3,277
現預金	7,324	8,236	912

為替レート (期末)	ドル	111円	108円	△3円
---------------	----	------	------	-----

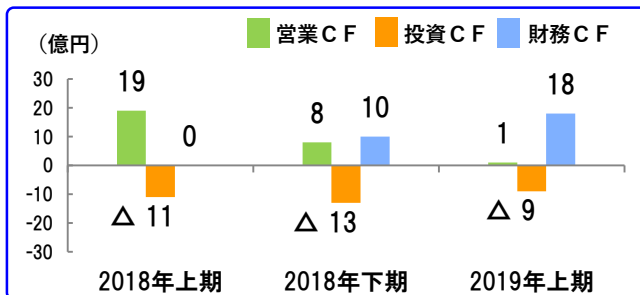
【自己資本比率】



【有利子負債（現預金控除ベース）】



【キャッシュ・フロー】



縫製機器 & システムは、アジアにおけるミドルマーケットでの売上が堅調に推移する一方で、中国、欧州での売上が減少したことから前年比△1.9%の減収。

産業機器 & システムは、産業装置で米国の売上が堅調に推移し、新型マウンタやスマートファクトリー提案で展開する省力化装置などの売上が増加した一方、中国、欧州での売上が減少し、前年比△3.6%の減収。

(百万円)

	'18/12期 (2018年度)			'19/12期 (2019年度)			前年同期比 増減額 <B-A> (増減率)
	上期			上期			
	1Q	2Q	上期<A>	1Q	2Q	上期	
	'18年1-3月	'18年4-6月	'18年1-6月	'19年1-3月	'19年4-6月	'19年1-6月	
縫製機器 & システム	17,065	17,704	34,769	17,083	17,026	34,109	△ 659 (△1.9%)
産業機器 & システム	8,505	9,818	18,323	8,607	9,047	17,654	△ 668 (△3.6%)
その他	78	64	142	62	59	121	△ 21 (△14.8%)
合計	25,650	27,585	53,235	25,753	26,132	51,885	△ 1,349 (△2.5%)
グループ事業	2,645	2,638	5,283	2,684	2,941	5,625	342 (6.5%)

縫製機器&システムは、売上減の影響やミドルマーケット開拓の推進などにより、前年比△12.1%の減益。

産業機器&システムは、売上減の影響やソリューション強化のための先端開発費の増加により、前年比△34.6%の減益。

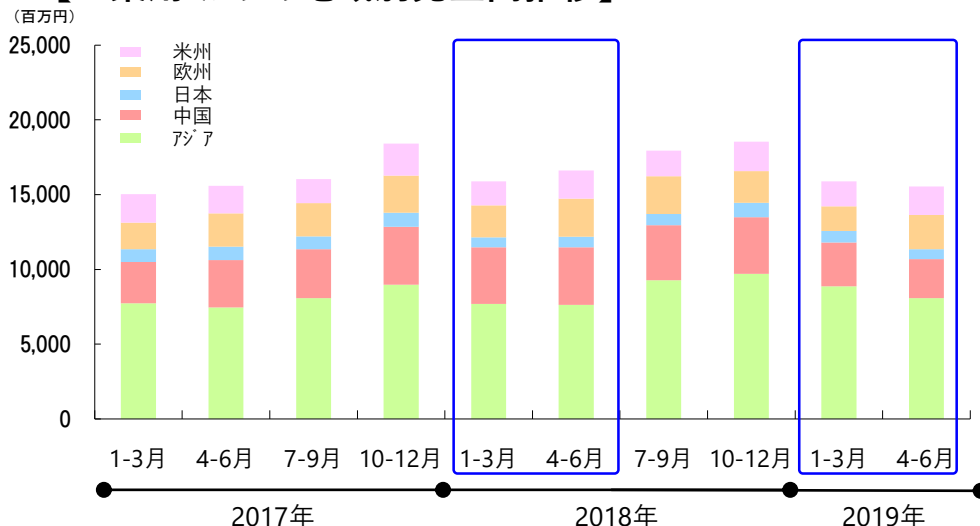
(百万円)

	'18/12期 (2018年度)			'19/12期 (2019年度)			前年同期比 増減額 <B-A> (増減率)
	上期			上期			
	1Q	2Q	上期<A>	1Q	2Q	上期	
	'18年1-3月	'18年4-6月	'18年1-6月	'19年1-3月	'19年4-6月	'19年1-6月	
縫製機器 & システム	553 [3.2%]	1,509 [8.5%]	2,062 [5.9%]	795 [4.7%]	1,016 [6.0%]	1,811 [5.3%]	△ 250 (△12.1%)
産業機器 & システム	825 [9.7%]	976 [9.9%]	1,801 [9.8%]	679 [7.9%]	498 [5.5%]	1,177 [6.7%]	△ 624 (△34.6%)
その他	11 [14.1%]	20 [31.3%]	31 [21.8%]	13 [21.0%]	27 [45.8%]	40 [33.1%]	9 (30.4%)
調整額	△443	△273	△716	△384	△538	△922	△205
合計	946 [3.7%]	2,232 [8.1%]	3,178 [6.0%]	1,103 [4.3%]	1,004 [3.8%]	2,107 [4.1%]	△1,070 (△33.7%)

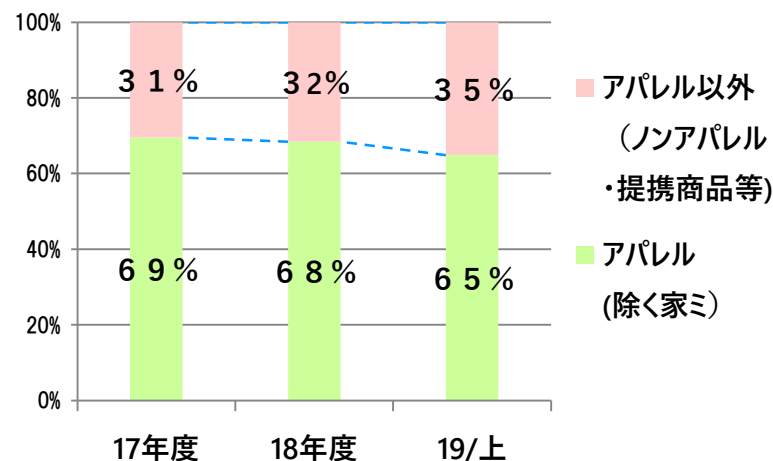
* []は売上高利益率

- アジアは、インド等のミドルマーケット顧客開拓が進み売上増加。
- 中国は、売上が△28%減少。(中国+アジアでは△2%の減少)

【工業用ミシンの地域別売上高推移】(月次集計ベース)



【アパレル・アパレル以外の売上高比率推移】(除く家庭用ミシン)



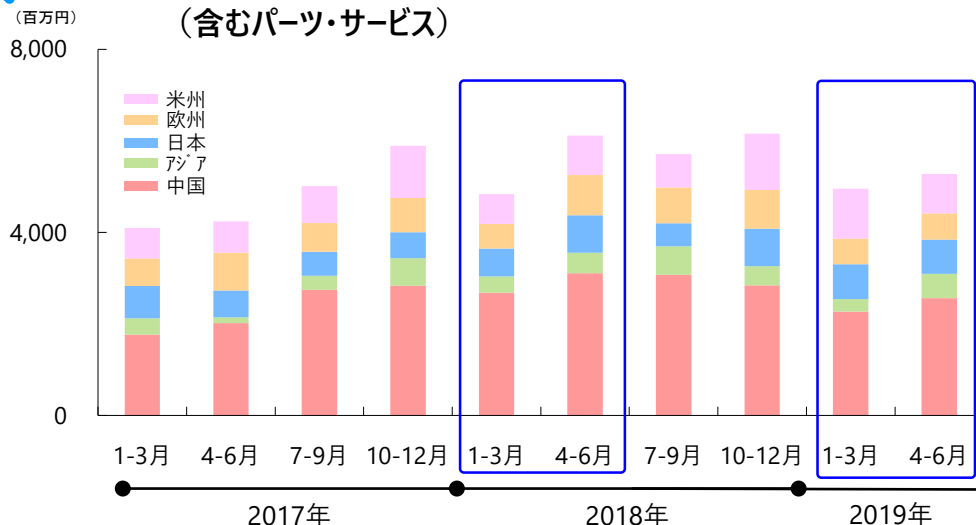
【売上高：前年同期比較】

(単位：億円)

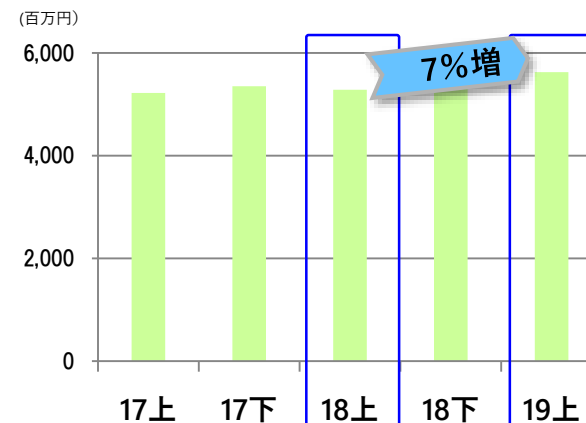
	2018年 (1-6月)	2019年 (1-6月)	増加額	(増減率)
中国	76	55	△21	(△28%)
アジア	153	169	16	(+10%)
中国+アジア	229	224	△5	△2%
日本	14	15	1	
欧州	47	39	△8	(△17%)
米州	35	36	1	
合計	325	314	△11	△3%

産業装置は、米国での売上が堅調に推移する一方で、中国での売上が△17%減少。
受託加工等のグループ事業は前年比7%増加、パーツ事業は前年並。

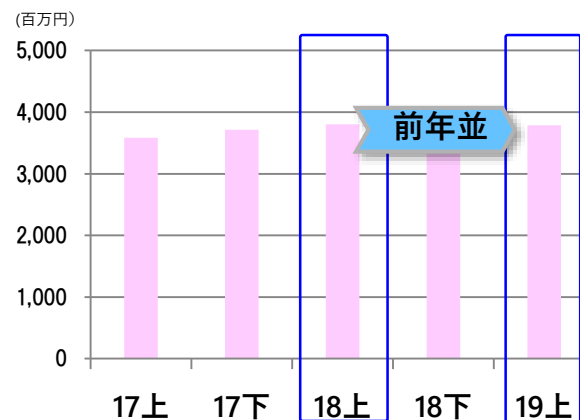
1. 【産業装置の地域別売上高推移】 (月次集計ベース)



2. 【グループ事業の売上推移】



3. 【パーツ事業の売上推移】



【売上高：前年同期比較】

(単位：億円)

	2018年 (1-6月)	2019年 (1-6月)	増加額	(増減率)
中国	58	48	△10	(△17%)
アジア	8	8	0	
中国+アジア	66	56	△10	△15%
日本	14	15	1	
欧州	14	11	△3	
米州	15	20	5	(+33%)
合計	109	102	△7	△6%

	(億円)		【参考】	(億円)
	2019年 通期(1-12月)	2019年 上期(1-6月)	2018年 通期(1-12月)	2018年 上期(1-6月)
	予想	実績	実績	実績
売上高	1,140	519	1,120	532
(縫製機器 & システム)	(750)	(341)	(736)	(348)
(産業機器 & システム)	(390)	(177)	(382)	(183)
営業利益	73	26	91	37
経常利益	68	21	83	32
当期純利益	50	14	66	19
配当	通期：30円/株		通期：30円/株	
為替レート	1ドル=105円	1ドル=110円	1ドル=111円	1ドル=109円

※ 2019年12月期通期の業績予想につきましては、米中貿易摩擦などにより当面の為替動向や新興国での事業環境が不透明であることから、前回公表値(2月12日)から変更していません。今後、事業環境など当社の業績に与える影響を勘案した上で、予想値について精査してまいります。

第2部

中期経営計画(2019-2021)の取り組みと 2019年度下期の重点施策

中期計画「Value up 2022」の3年目スタート



- ① 3カ年計画をローリングさせ、2022年に到達
- ② 絶えず向う3カ年の環境変化を見ながら経営
- ③ 一年毎の事業計画の展開状況を踏まえ次の一年間を修正

事業環境

- 世界経済は、不安定さを増し減速の懸念
 - ・米中貿易摩擦、地政学的リスク、円高リスク
- 異業種・他業態との競争の激化
 - ・中国ミシンメーカーの成長、自動化に向けた異業種参入
- 技術革新(「モノ」から「コト」へ)の動きが加速
 - ・AI、ロボット、IoT等への関心拡大

顧客ニーズ

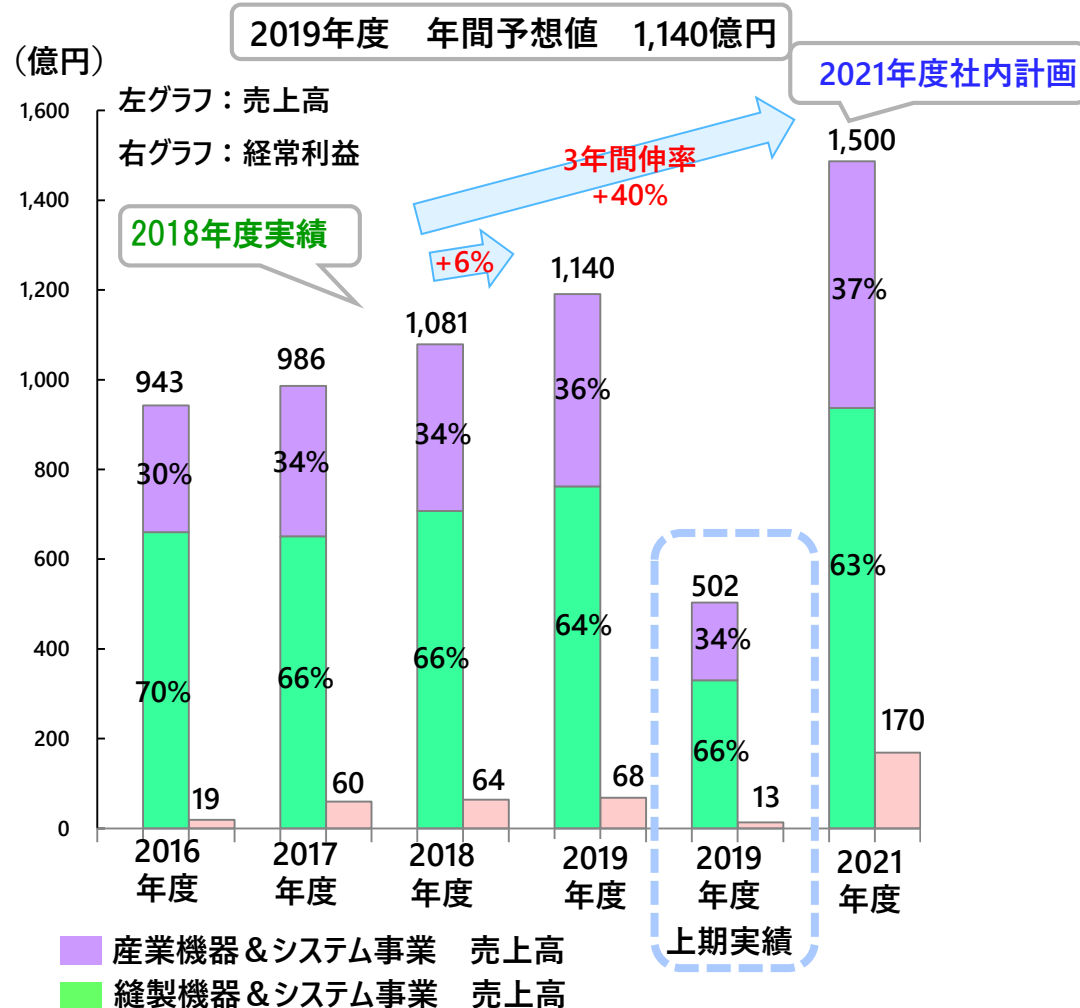
- スマートカンパニー・ファクトリーへ積極投資
 - ・デジタル化、システム化、自動化ソリューションの導入

企業への
要請

- 先進的な経営体制の構築
 - ・働き手不足・働き方改革への対応、生産性向上、ESG対応
- 利益重視の経営
 - ・毎年の増収増益、配当の安定化、自己資本の拡充

【売上高・経常利益】

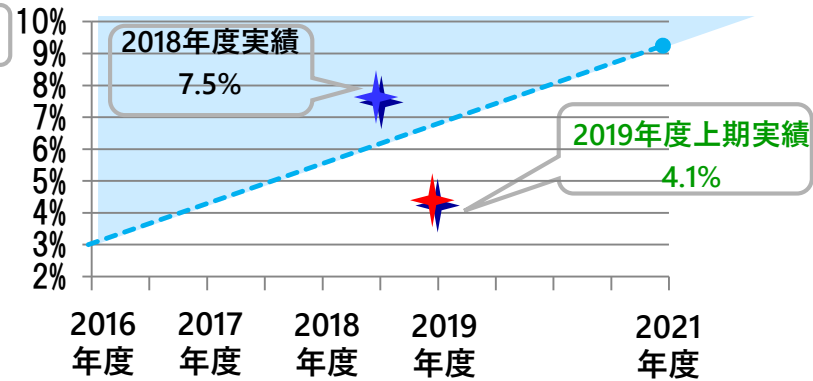
(目標： 年間 9%増収)



※グラフ中 実績・計画共、1ドル=105円 換算ベース

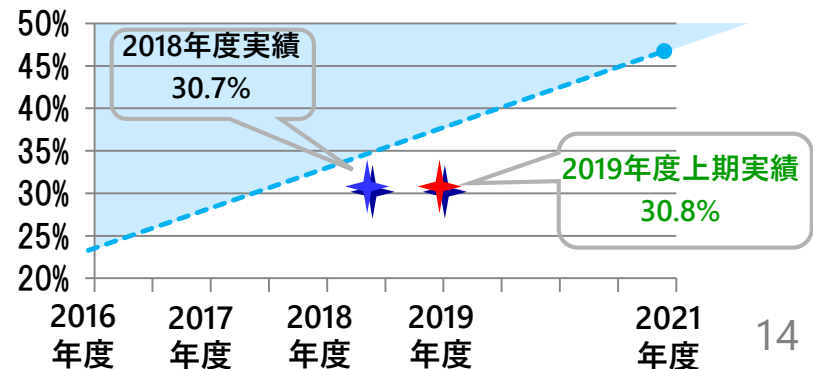
【経常利益率】

(目標： 2021年度 9.2%以上)



【自己資本比率】

(目標： 2021年度末 47%以上)




 ビジョン

お客様に選ばれる高品質な製品・サービスを提供しつづける企業
～世界中のお客様へ「感動と安心」をお届けしよう!!～

“モノづくり”から“コトづくり”企業への転換



 事業戦略

- ① ソリューション営業での価値創造力の強化
～先端開発強化、オープンイノベーション活用、プラント営業の展開
- ② 市場開拓による将来の顧客基盤構築
- ③ 将来を見据えたビジネスカテゴリーの創出と強化
～グループ事業、サービスソリューション事業、非実装市場開拓

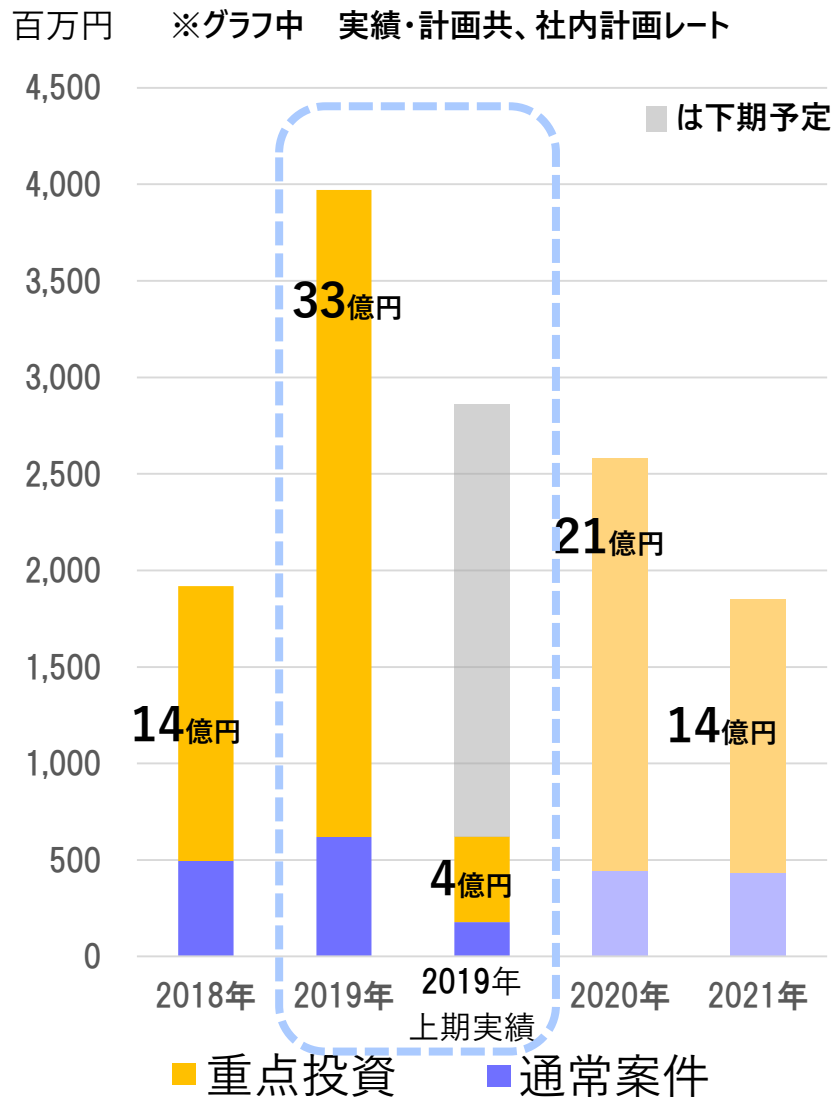
体制戦略

- ④ ビジョンを実現するグローバルでイノベーティブ（革新的）な人材の育成と活用
- ⑤ スマートな事業基盤の構築（プロセスのSmart & Connected化）
～SCM見直し、製品原価低減、働き方改革、戦略的環境投資実施

基本方針

中期経営計画の取り組み 生産設備投資計画

スマートファクトリー実現に向け、各工程の見える化、効率化を推進



2019年の主な取り組み

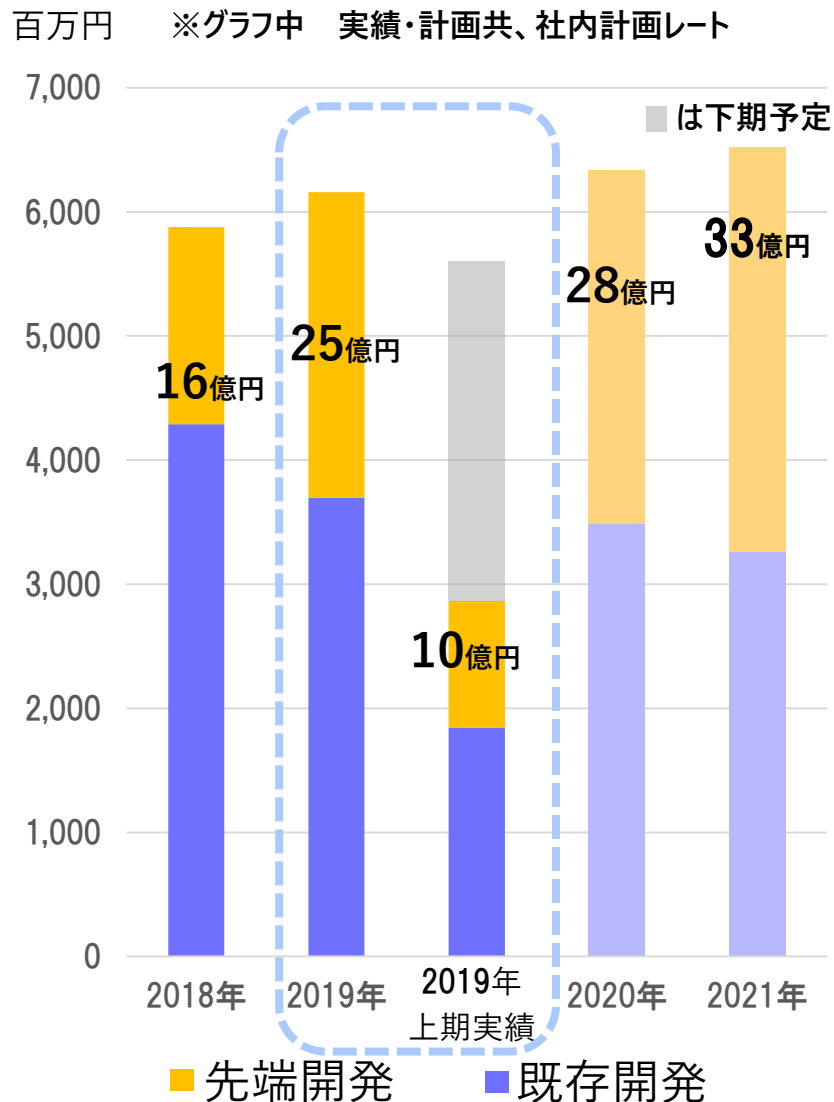
各工場の生産ライン工程の見える化



検査工程の自動化



差別化商品開発に向け、先端技術の取り込み、オープンイノベーションを推進



2019年の主な取り組み

シューズ縫製ロボットの開発

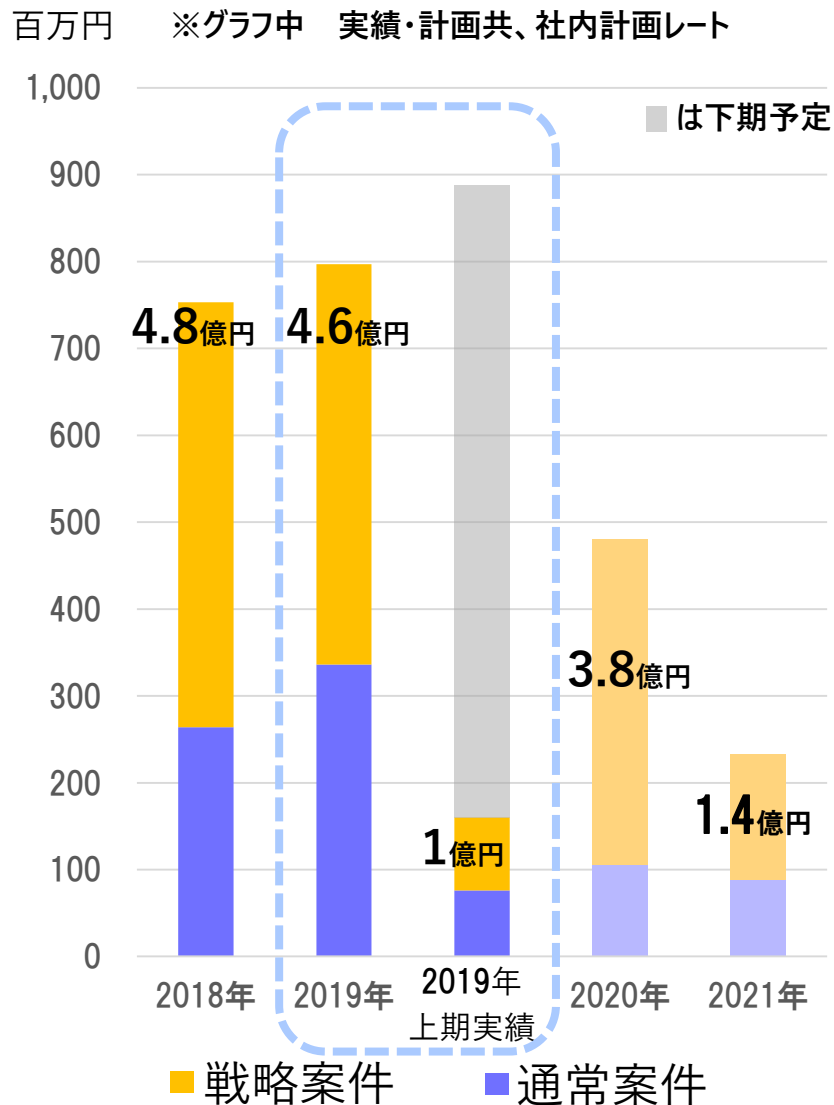


YKK社とのファスナー縫製ミシンの共同開発



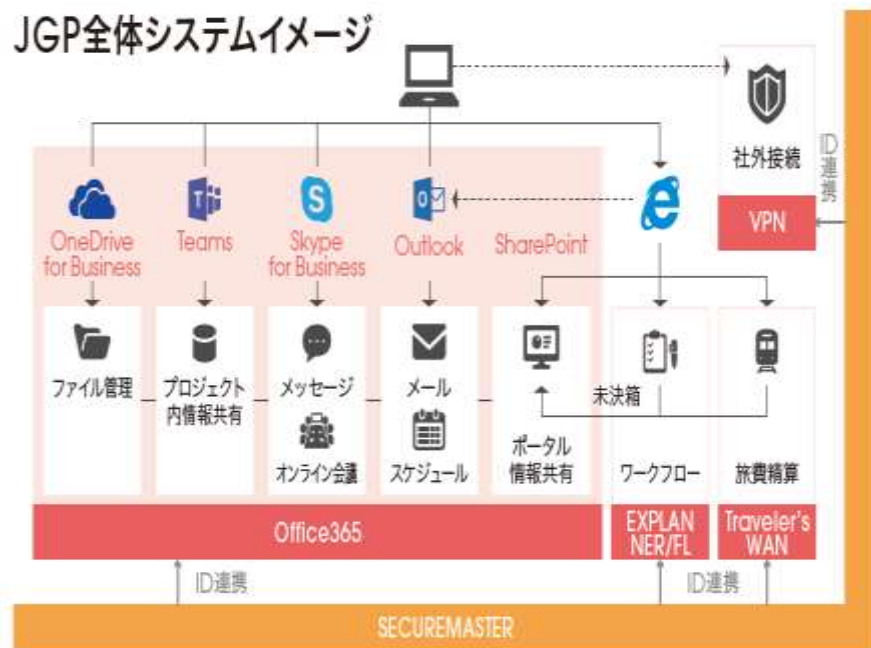
テープを無くした新タイプのファスナー「AiryString™」を「AiryString™」(2019年7月リリース) 縫製する専用マシン

業務の効率化およびグループ経営インフラの構築を急ぐ



2019年の主な取り組み

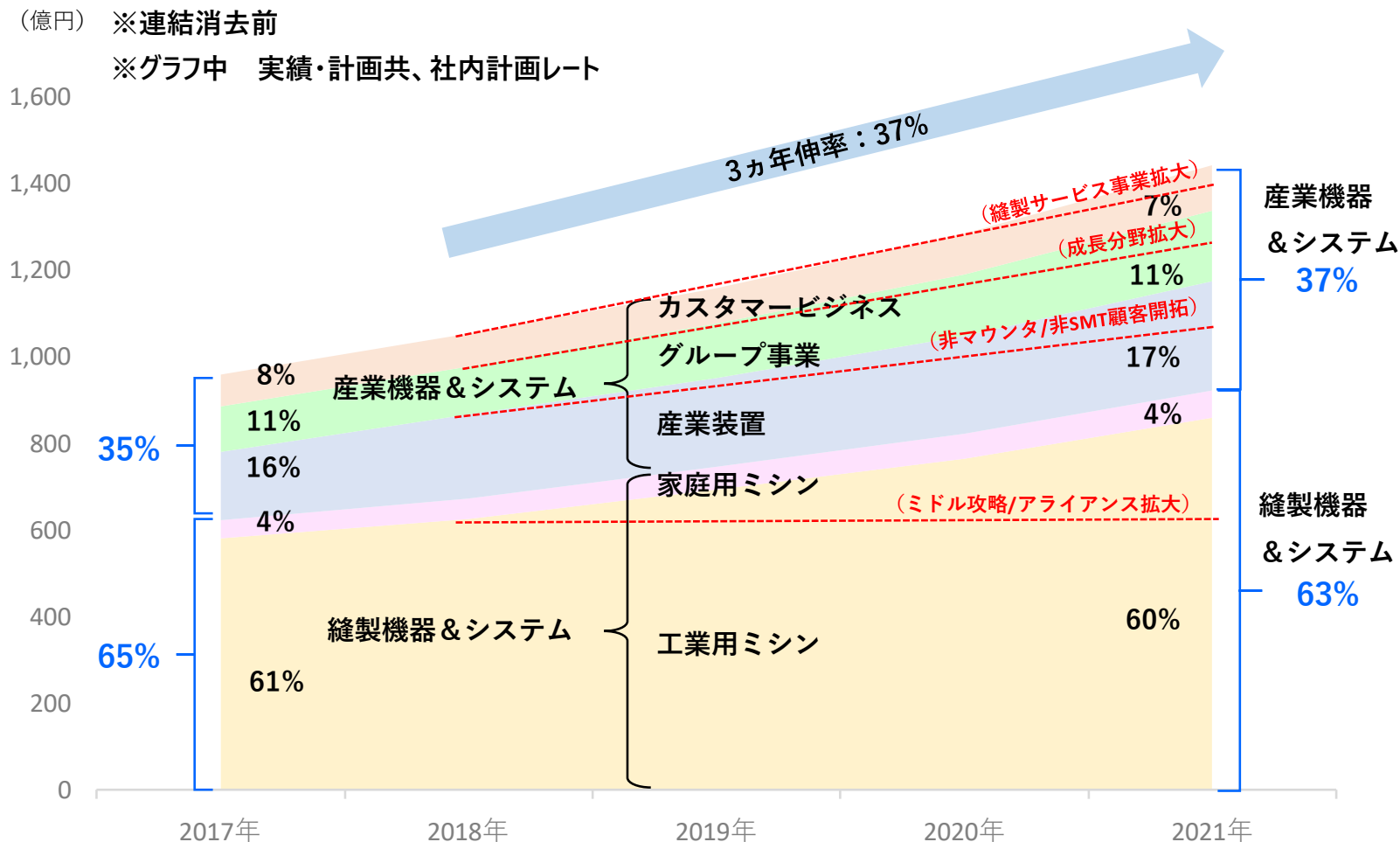
JUKI Global Platformの導入
(グループ共通の情報システム社内)



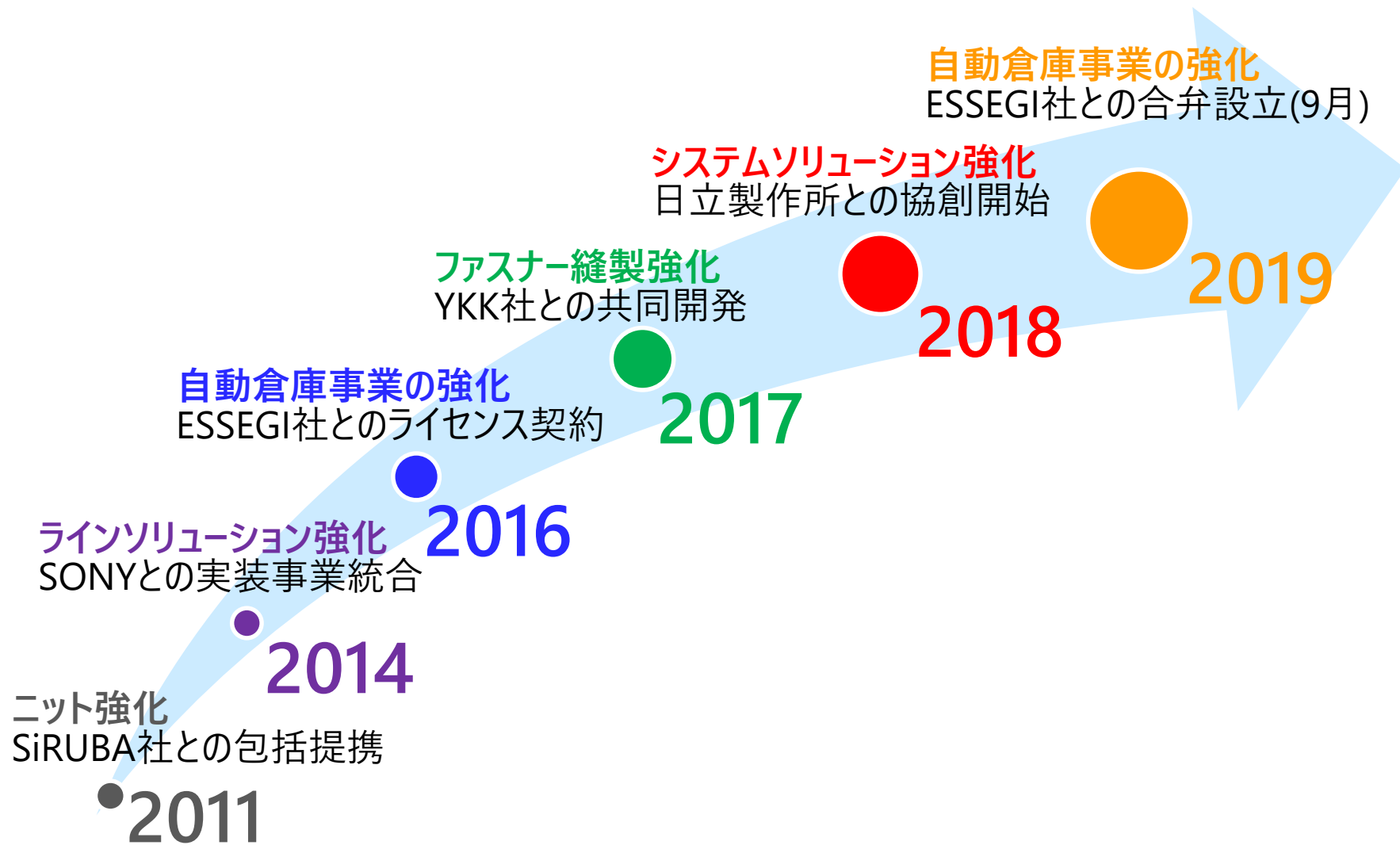
2018年9月の本社導入を皮切りにグループ全体へ展開

中期経営計画の取り組み 事業ポートフォリオ

各事業領域において成長分野・差別化分野へ経営資源を投下し
事業ポートフォリオの拡大を図る



お客様のソリューション多様化への対応として、
オープンイノベーション(アライアンスの活用)により事業領域の拡大を進める



お客様の産地移転、仕事移転への対応として、
 本社、中国、アジア、アフリカへのボーダレス営業を進める

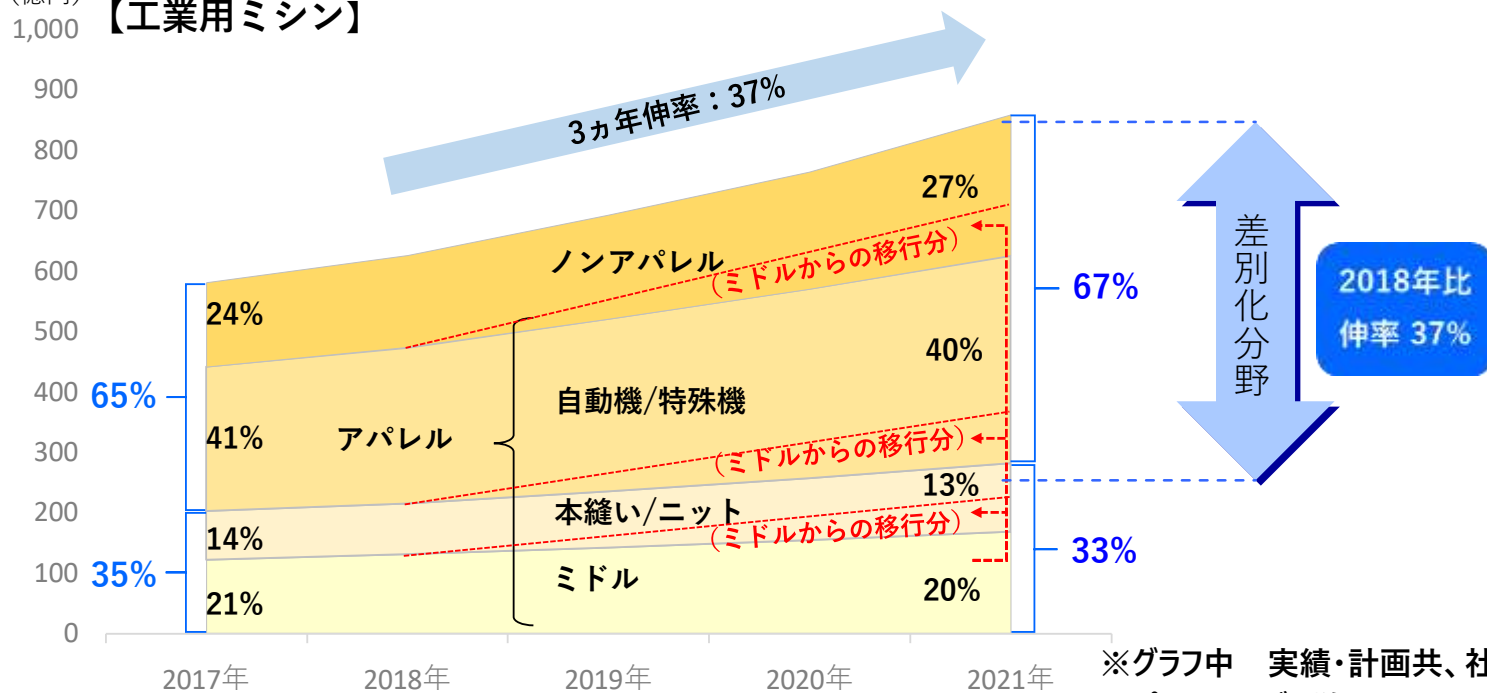
- グローバル営業チームの活用
- 販社間連携

重机(中国)投資 /
 東京重機国際貿易 (上海)



ビジョン	JUKI Smart Solutionsのもと、革新的技術とシステム提案によりお客様のイノベーションに貢献
基本方針	ミドル顧客の開拓とハイエンドへの移行による将来の顧客基盤を構築 ①ミドル攻略 ②プラント提案営業 ③アライアンスの活用
重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・成長するミドルユーザーとの取引拡大 ・大手顧客との関係強化と中長期的な投資ビジネスの獲得 ・ノンアパレル分野の更なる強化 ・アライアンス活用による事業領域の拡大

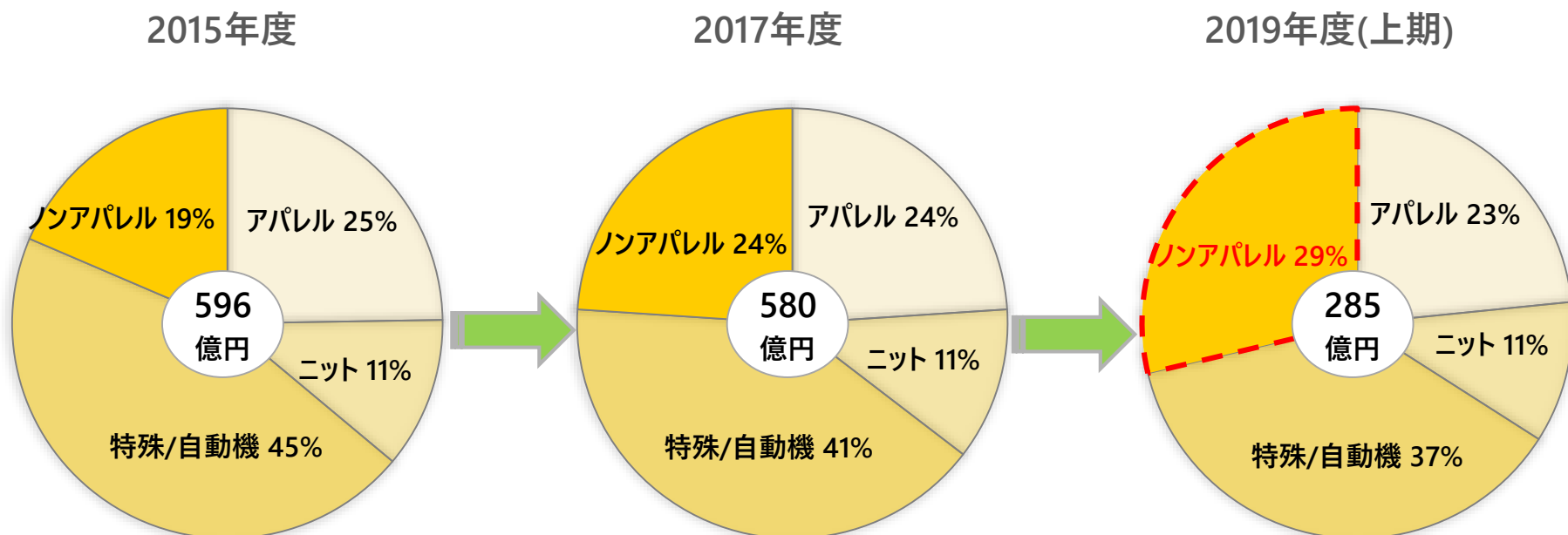
(億円) 【工業用ミシン】



※グラフ中 実績・計画共、社内計画レート
※パーツ/サービス除く

【工業用ミシン】 アパレルからノンアパレル領域への事業領域の拡大が進む

- 自動車、スポーツシューズ、靴等の需要増への対応強化
- 縫製ラインの生産性向上ニーズへ対応したソリューション営業強化



※グラフ中 実績・計画共、社内計画レート
 ※パーツ/サービス除く

《ハイエンド向け》
デジタルシリーズを軸とした
ラインソリューション



自動機



《生産性向上・省人化》
ロボット縫製



自動搬送装置 (AGV)



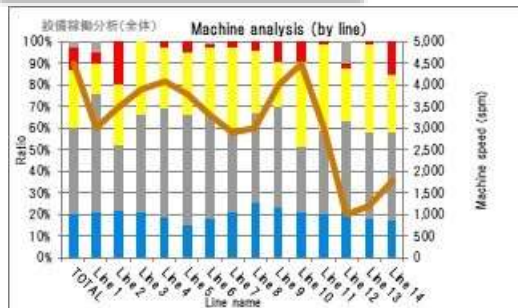
《プラント提案》



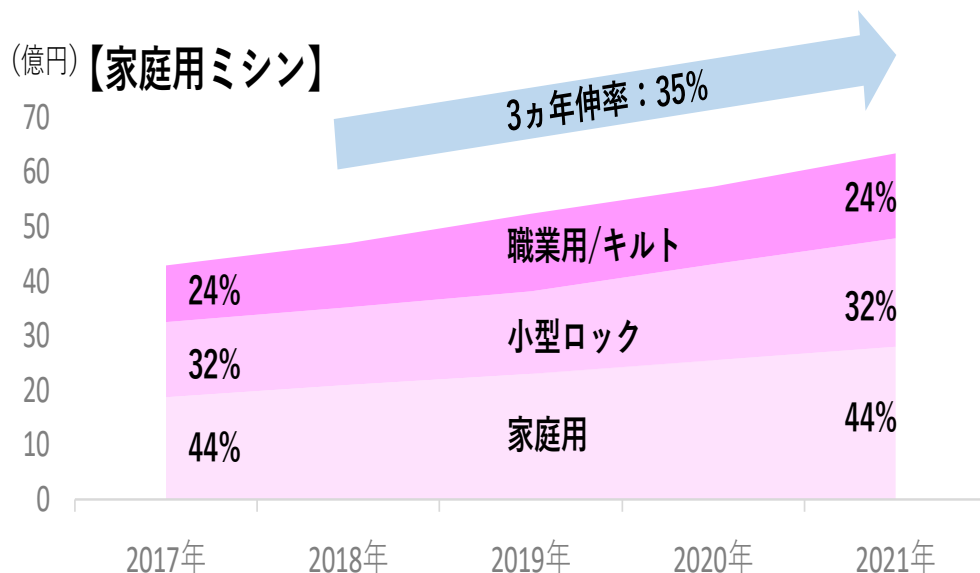
《ミドル向け》
シンプルシリーズを軸とした
ラインソリューション

Simple Series
Standard for Lockstitch Machine

《JaNets》
IoT活用による現場改善



ビジョン	趣味力の高いお客様 (Home Sewer) と 新たな楽しみの創造
基本方針	強みである 高級家庭用・小型ロック・職業用・キルト を中心に事業を拡大
重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・JUKIの強みを活かした製品展開でホビークラフトマーケットを攻略 ・市場規模が大きく、かつハイエンド市場のある主要3市場 (日米欧)に注力して拡販と利益改善 ・マーケティング強化とブランド力の向上 ・ニーズ探索、情報発信力強化によるユーザーの囲い込み ・アクセサリパーツの拡販



市場の特性にマッチしたラインナップ強化

《日本》
高級職業用ミシン

SL-700EX



リアル&デジタル



顧客の創造



《アメリカ》
高級家庭用ミシン
キルト用ミシン
刺しゅう機

《欧州》
高級家庭用ミシン

《Kirei》
HZL-NX7



《彩》

QVP

(タジマ工業製)



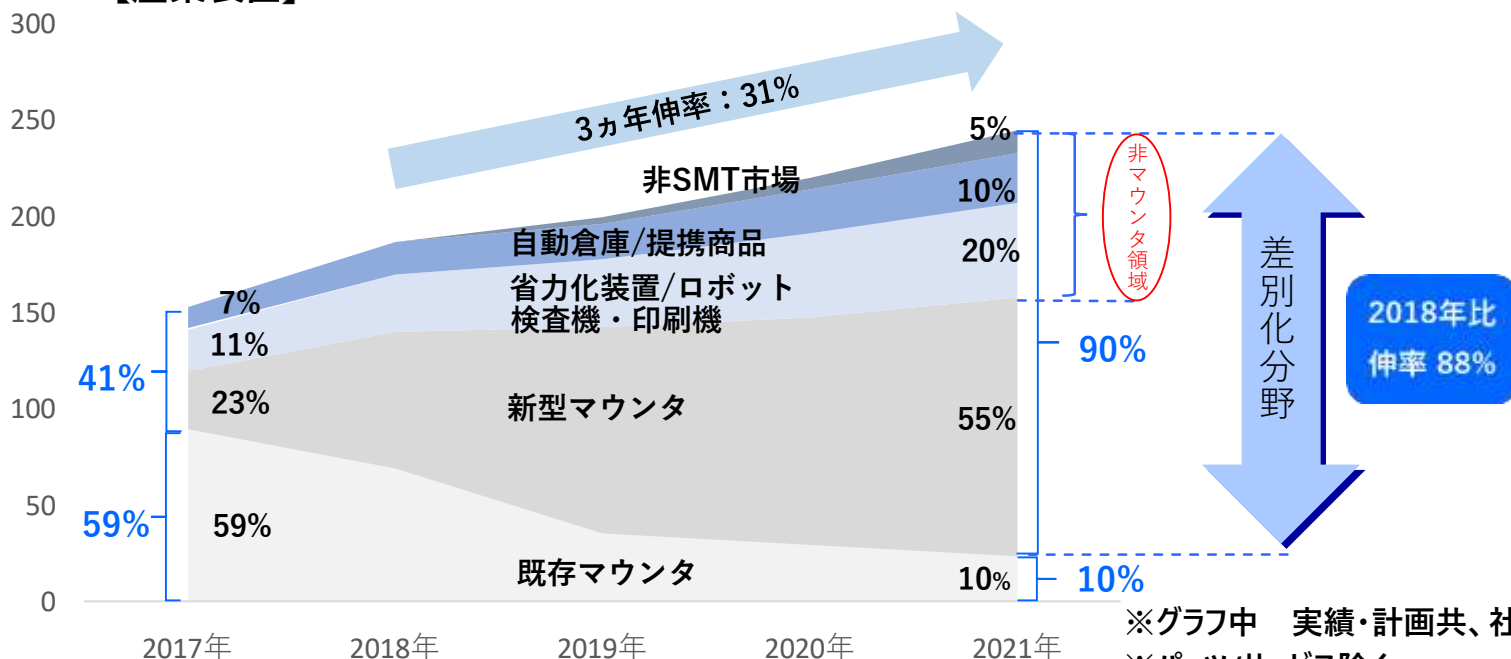
《みやび》

J-350QVP



ビジョン	得意分野への集中と自動化・省人化ソリューションで、顧客にとってなくてはならない事業パートナーへ JM+ロボット、自動倉庫+周辺機器の拡販
基本方針	非マウンタ領域でのソリューション拡大 とマウンタ領域でのラインソリューション拡充により事業基盤を拡大
重点施策	<ul style="list-style-type: none"> 顧客層別販売戦略・商品戦略の推進 新製品投入による販売拡大および粗利率の改善 ソリューション営業による省人化装置、自動倉庫、提携商品の拡販

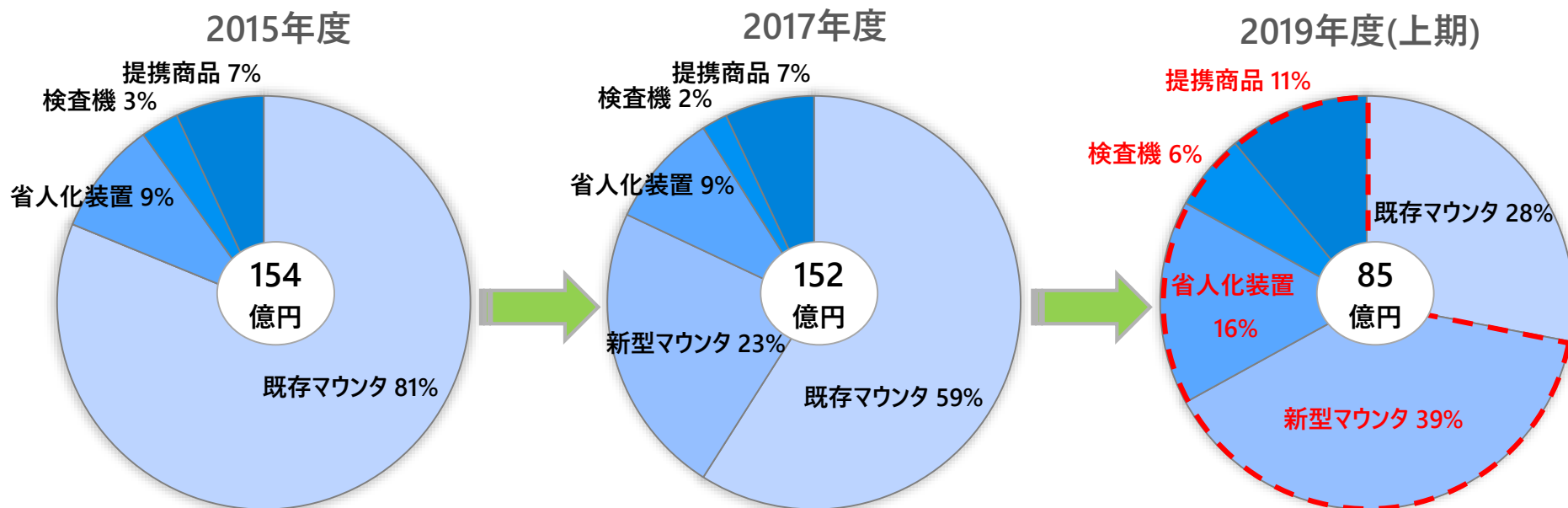
(億円) 【産業装置】



※グラフ中 実績・計画共、社内計画レート
※パーツ/サービス除く

【産業装置】 新型マウンタへの移行と非マウンタ領域の拡大

- 新型マウンタ(RS-1)の匠ヘッド+高速ロータリーヘッドによる他社製品との差別化推進
- 省人化装置/検査機/提携商品を組み合わせたソリューション営業活動の推進



※グラフ中 実績・計画共、社内計画レート
※パーツ/サービス除く

JUKI Smart Solutions



提携会社

A社

B社



オープンイノベーション

実装統合システムソフトウェア

JaNets

Juki Advanced Network system

生産支援

遠隔サポート

装置間連携

AI予知保全

基幹システム連携



ストレージシステム
ソリューション



ロボット挿入システム
ソリューション

高速実装システムソリューション

測定用途ソリューション



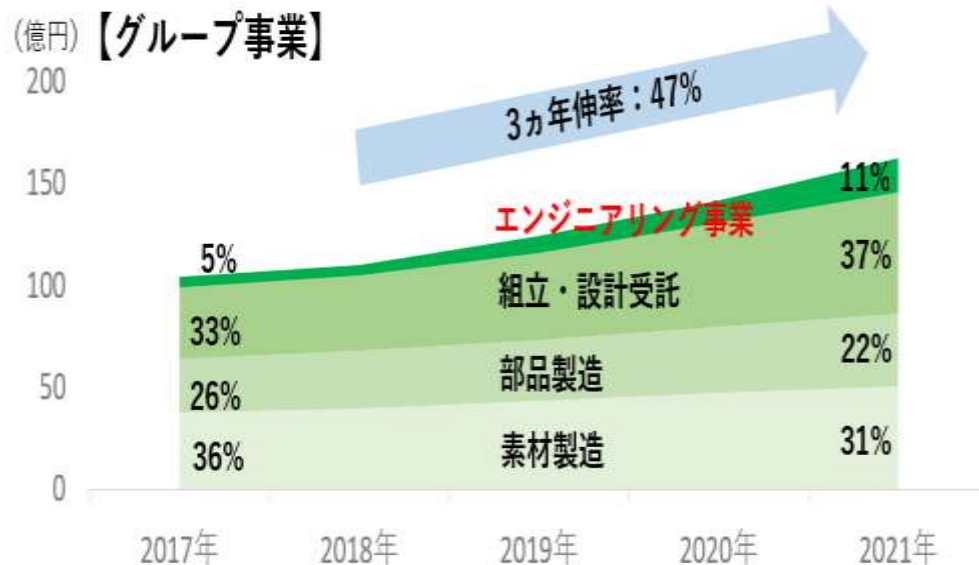
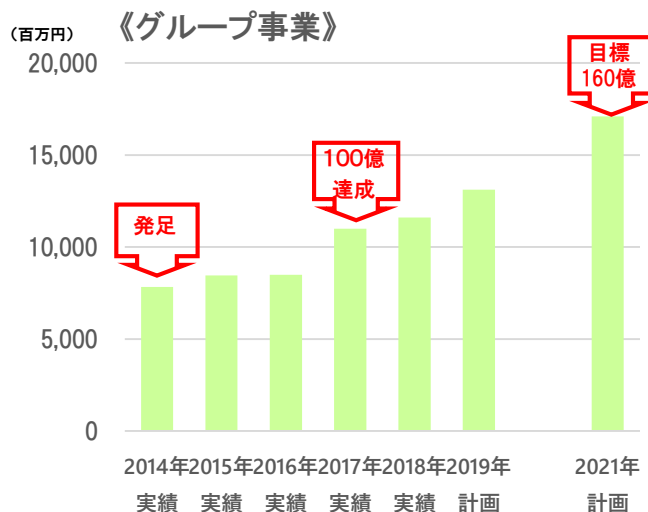
材料・部品管理領域 SMT領域 手挿入領域 測定領域 組立領域 梱包領域

拡大事業領域

既存事業領域

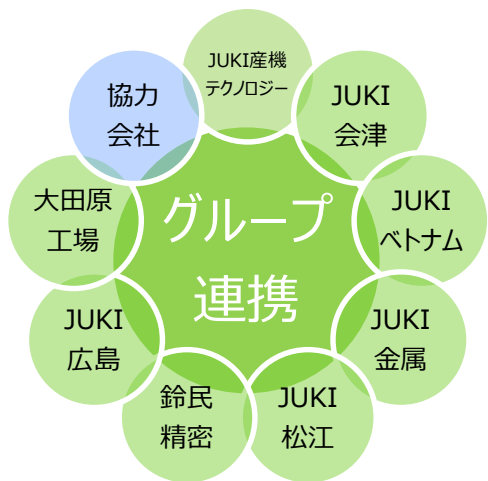
拡大事業領域

ビジョン	JUKIグループの経営資源（製造技術含む）を活かし JUKI第三の柱へ
基本方針	新規顧客開拓と重要顧客の間口拡大 で第三の柱と するべく売上を拡大 ～2021年に売上目標160億円を達成
重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・重要顧客の間口拡大による売上拡大 ・保有技術活用(本社 & 各社)による顧客製品、工場設備サポート業務の推進

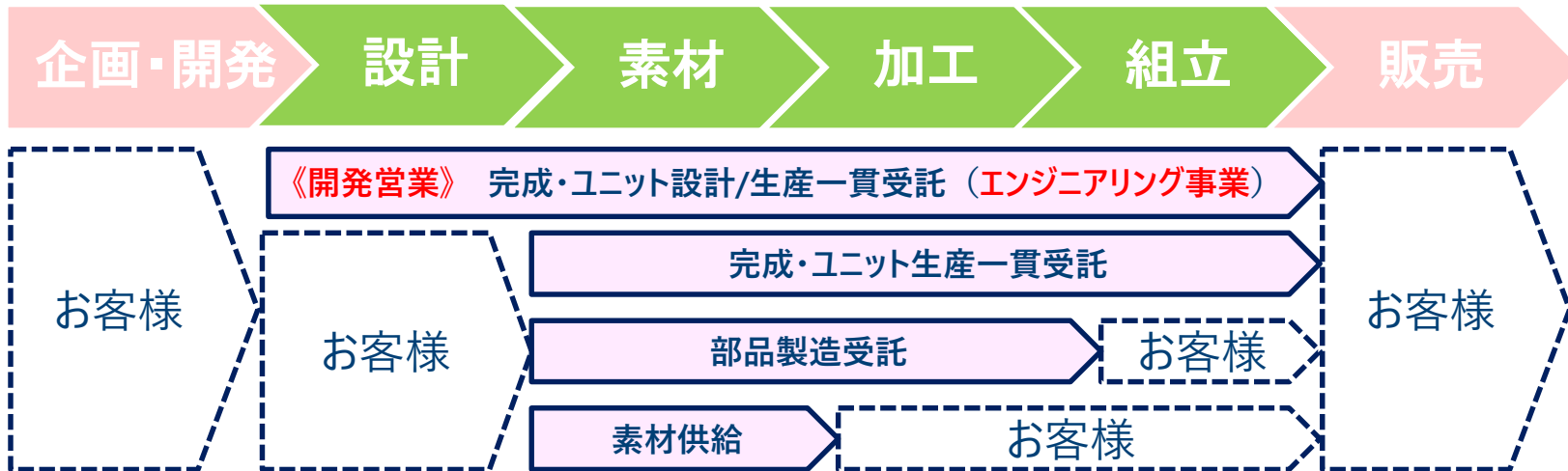


JUKI Contract Business Model

生産グループ会社（国内7社、海外1社）と協力会社による
JUKIのものづくり力とネットワークを活用

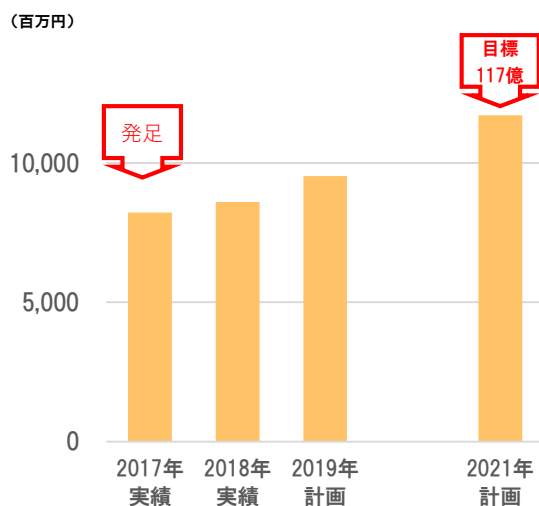


- ★外部のお客様のニーズに対し
- ★グループ連携で受託範囲を拡大することで
- ★お客様の製品と工場設備を対象としたものづくりをサポートする

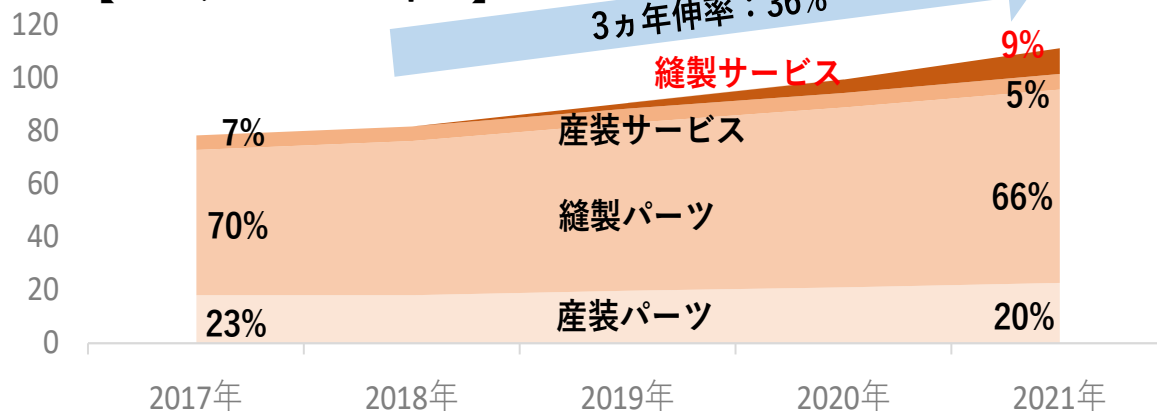


ビジョン	今日頼んだものが、明日必ず手に入るJUKI部品
基本方針	<u>システムサポート/リモートメンテナンス/設備診断</u> によるパーツ拡販と縫製サービスの事業化
重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・新規商材の拡大 ・縫製事業分野での設備診断によるサービス事業の確立 ・マーケット拡大、商材の拡大、拡販体制の拡充(後方支援)を継続推進 ・中古機ビジネスの再構築

《カスタマービジネス》



(億円)【カスタマービジネス】



パーツ/サービスBIZ拡大



- ・縫製 メンテナンスカルテによるマシン診断
- ・産装 中古機ビジネスの再構築



スマートライン導入におけるアフターサービス事業拡大



技術支援

リモートメンテナンス



Smart Solutionへの対応



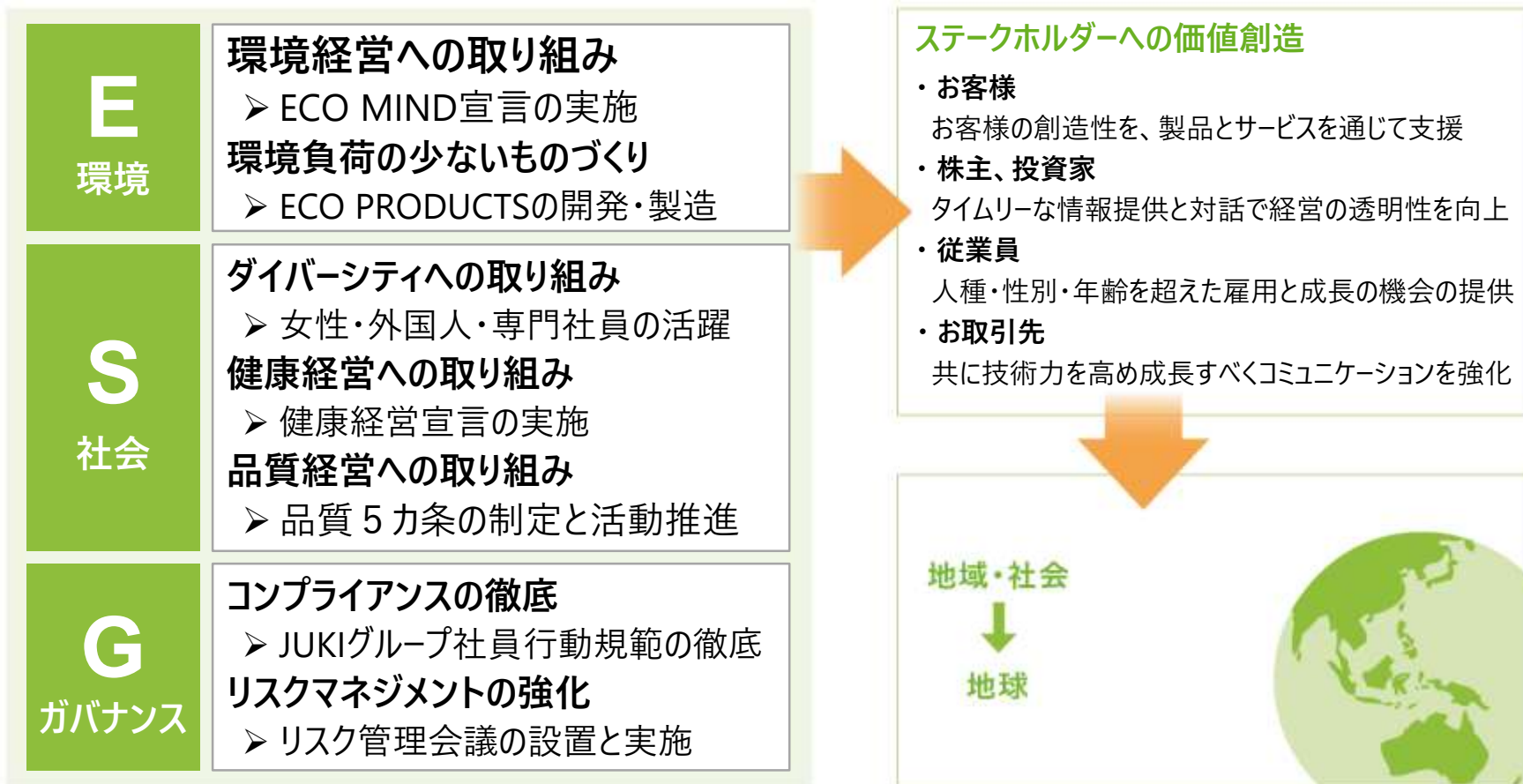
パーツ供給体制
パーツセンター/販社倉庫



情報共有、発信の為の
ネットワークシステム

活動を支える後方支援

環境への配慮・地域社会への貢献・ガバナンスといったESGに関する課題に適切に配慮・対応する取り組みを進め、社会にとって存在価値のある会社であり続けることを目指す





工業用マシンでの低騒音・低振動テスト

開発・設計

省電力・低騒音・低振動・発熱低減など、人と環境にやさしい製品を開発・設計。連結マシン、製品素材改善等。

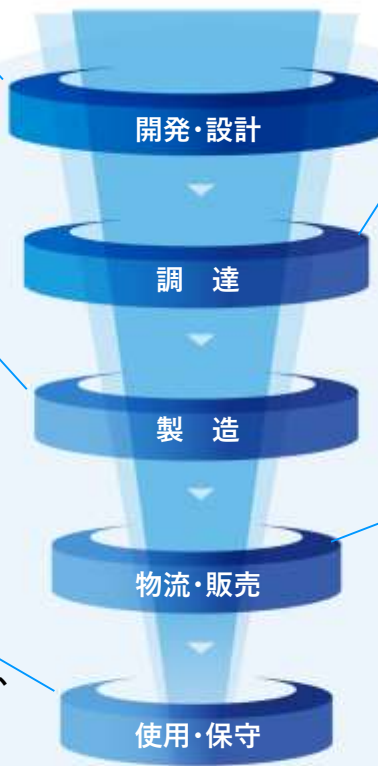
製造

生産の効率化、コスト削減、5Sに取り組み、CO₂および、廃棄物排出量の削減に努力。エネルギーの見える化、インバーター化による省エネ等。

使用・保守

お客様からのお問い合わせや、ご要望にきめ細かく対応するサービス・メンテナンス体制を整備。

JUKIのものづくり



調達

「JUKIグループグリーン調達ガイドライン」を定め、グリーン調達適合化を推進。

物流・販売

鉄道輸送へのモーダルシフト推進によりCO₂削減に貢献。



蛍光 X 線分析装置での有害物質含有検査



モーダルシフトでのCO₂削減



産業装置の保守作業によるお客様対応



人に

- 省電力・省エネ
- 操作性・メンテナンス性

生み出す
価値

環境に



- 環境負荷の低減

ECO PRODUCTS

JUKIは製品開発段階で環境に関する38項目の評価を行っており、高いレベルで環境配慮を実現した製品を「JUKI ECO PRODUCTS」として認定しています。



工業用マシン



振動・騒音低減（オペレーター負荷軽減）

MS-1261A/DWS

高速腕型3本針二重環縫
ソーイングシステム



消費電力12.2%削減（基本性能あたり）

AMS-221F

入力機能付き電子サイクルマシン



消費電力24.7%削減（基本性能あたり）

PLC2700V-7シリーズ

セミドライヘッド ポストベット 本縫総合送り
水平大釜糸切りソーイングシステム

家庭用マシン



部品点数約7%削減（従来機種比）

HZL-NX7

家庭用コンピューターマシン

産業装置



消費電力32.5%削減（基本性能あたり）

JM-100

マルチタスクプラットフォーム



部品共用化比率85%

RV2-3DH

3D基板外観検査装置

ダイバーシティへの取り組み

性別・年齢・国籍等にかかわらず、多様な人材、多様な働き方を受け入れ、一人ひとりの多様性を活かすダイバーシティマネジメントを推進しています。「女性活躍推進」「グローバル人材配置」「専門社員の活躍推進」を3つの柱に、組織パフォーマンスを最大化することを目指しています。



新たな働き方への取り組み

1日の所定労働時間を変えずに、出勤と退勤をスライドできる制度"スライドワーク"を2019年1月より導入しました。ワークライフバランスや属人的な業務の解消、残業時間の削減を狙っています。

スライドワーク

事前の申請により、個人単位での始業・終業時間を繰り上げ・繰り下げする働き方。所定労働時間(本社は7時間45分)は不変。一般的に"スライドワーク"や"時差出勤"と呼ばれる。



品質経営への取り組み

JUKI本社、国内工場、国内外のグループ会社のすべてにおいて、品質保証、監査、業務管理の体制強化を図り、共通の「品質5カ条」を制定するなど、JUKIグループの経営体質を以前に増して強固なものへと推進してまいります。

品質-安全-安心- 品質5カ条

- 1 私たちは、製品・サービスの提供にあたり、法律やルール、お客様との約束を遵守します。
- 2 私たちは、製品・サービスの品質において、お客様の安全と安心を最優先します。
- 3 私たちは、常にお客様の声を誠実に受け止め、たゆまぬ品質向上の努力を続けます。
- 4 私たちは、5ゲン主義に基づき品質を高め、お客様の信頼を獲得し事業を成長させます。
- 5 私たちは、製品・サービスの品質向上を通じ、社会の持続可能な発展に貢献します。

*5ゲン主義 



エコシックデザインアワードを支援

ファッション業界での廃棄物削減に取り組む環境NGO "Redress" (香港) が主催する、サステイナブルなファッションデザインの大会「エコシックデザインアワード」を、ミシンの提供や技術サポートを通じて支援しています。



本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等が様々な要因により異なる可能性がありますことをご了承ください。

J U K I 株式会社

お問合せ先：経営企画部 担当：鴨居田

T E L : 042-357-2294 F A X : 042-357-2399

ホームページURL : <https://www.juki.co.jp/>